



加地薬局かわら版

2014年4月

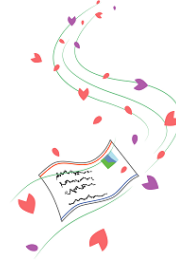


お薬の飲み残しについて

◆なぜ残薬ができるのでしょうか？

原因となる主な要因～

- ・どうしても飲み忘れてしまう
- ・予定より早く受診した
- ・処方内容が変わった
- ・併用薬や残薬が多くて整理がつかなくて飲まなくなった
- ・副作用が怖いから飲まない
- ・薬識がないため飲まない（薬の説明書はすぐ捨ててしまい、何の薬かわからなくなった）
- ・体調が悪くないので自分で調節しているので飲まない
- ・錠剤、カプセルまたは粉薬が飲めない（剤形上の問題）



高齢者の場合、処方薬の種類が多いほど、飲み残し、飲み忘れが目立つようです。

入退院をくり返したり、2か所以上の病院から薬をもらうと、わからなくなるケースも多いようです。

◆どうすればいいのでしょうか？

生活習慣病は自覚症状がないことも少なくないため、自己判断で服用量を減らしたり、中止してしまいがちですが、そうすることで合併症や重篤化をひきおこすリスクが高まります。

医師は患者さんの病気をしっかり診断したうえで、必要な薬を必要な量だけ処方しますので、正しく服用することで初めて薬は十分な効果を発揮できます。指示通り続けることが大切です。

それでも、どうしても残薬ができるならば、受診時に処方日数を調節してもらうようにしましょう。

また、一緒に飲んでいるお薬が多すぎて整理がつかない、わからない等あれば、飲むタイミングに合わせてお薬を整理することもできますので、医師やかかりつけ薬局にご相談下さい。

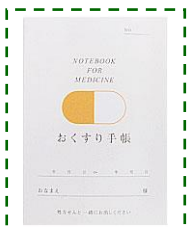
ここ数年は国家予算における医療費の負担が重く、医療費削減が叫ばれています。

残薬は年間 500億円の問題とされています。残薬調整は医療費削減にもつながります。

お薬手帳について



お薬手帳とは・・・



病院や薬局で調剤された薬の名前、服用量などの履歴を残すための手帳です。この履歴を見ると、次のことなどを医師、薬剤師が判断できます。

- ・どのような薬を服用しているのか
- ・同じ成分の薬が重複していないか
- ・新たに調剤された薬との飲み合わせが悪くないか



使い方

病院や薬局へ行った時、医師や薬剤師に見せてください。

お薬手帳は、必ず1冊にまとめてください。

調剤された薬のラベルの貼り付や、店頭で購入した薬を書き留めてください。

災害時の持ち出しリストにお薬手帳を追加してください。

《防水対策としてビニルカバー等を推奨》

